

公開シンポジウム

家族・支援者に役立つ『発達障害』理解の最前線

コメント（1）

地域・教育機関との連携の観点から

村上 祐介

（東京大学大学院教育学研究科准教授）

# お伝えしたいこと（要約）

- 福祉と教育との連携・つながりが課題
  - 就学前は福祉、就学後は教育が主に
  - 行政内部でも多様な主体が関わる
    - 情報の共有が難しい面がある
  - 行政組織をどうマネジメントするか
- 地域の多様なネットワークづくりが重要
  - 関係者が意見交換・情報共有する場をつくることの意義
  - ITの活用、連絡会議、校種間連携
  - 最新のサービスを地域にどう広げるか

# 報告者が関わった調査研究



『発達障害支援ネットワーク  
の確立に向けて』  
日本都市センター、2013年

<http://www.toshi.or.jp/app-def/wp/?p=2861>

# 報告者が関わった調査研究



『発達障害支援ネットワーク  
の構築に向けて』  
日本都市センター、2012年

<http://www.toshi.or.jp/app-def/wp/?p=2829>

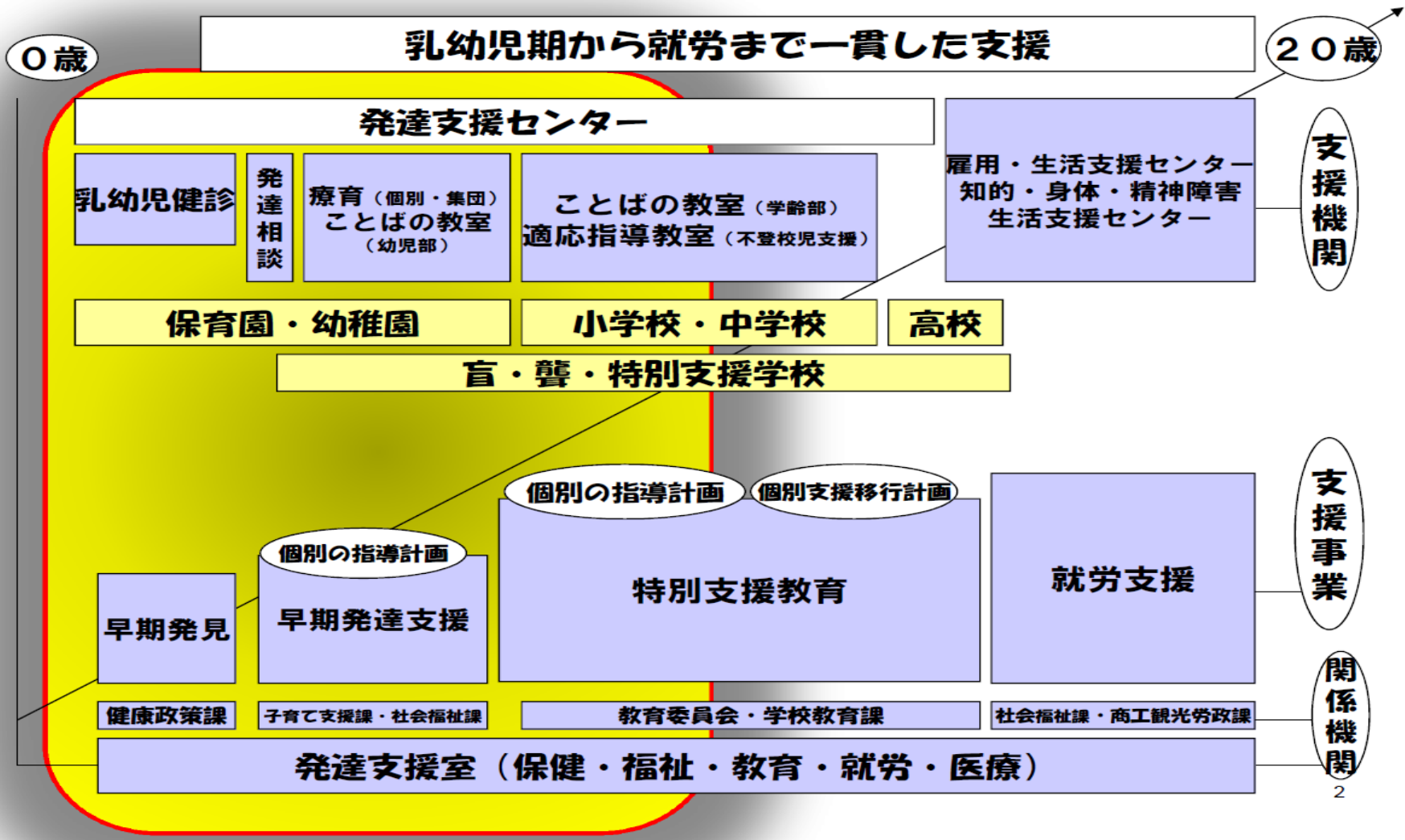
# 行政内部での連携

- 就学前と就学後の「つなぎ」に課題
  - 発達障害支援は行政内部でも多様な主体が関わっている
  - 就学前は福祉部門、就学後は教育部門
    - 加えて、幼・保は私立が多い
      - 行政との連携が上手くいかない例も
  - 都道府県と市町村との連携
    - 特別支援学校、児童相談所は都道府県
    - 小・中学校、福祉部門は市町村

# 福祉と教育との連携

- 一貫した支援体制確立のポイント
  - 行政内部で連携の中核となる組織があることが望ましい
  - 中核となる組織には教員を配置する
    - 行政内部の縦割り部門同士を「つなぐ」役割
  - 義務教育から高校への「つなぎ」が課題
    - 市町村の関わりが限定的になりがち
    - 就労も見据えた支援

# 湖南省発達支援システム



出典：[http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000039369.pdf)

[Kikakuka/0000039369.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000039369.pdf)（2017年6月28日閲覧）

# 多様なネットワークづくり

- 最近の知見・サービスを  
コミュニティ・ベースの支援に  
どう結びつけるか
  - 大学・コミュニティとの連携
  - 行政・教員への研修体制
- 関係者で情報共有ができる場を
  - 関係課（行政内部）  
関係者（行政内部・外部）の連絡会議
  - インターネット上での情報共有
  - 校種間（幼保と小など）での引き継ぎ
    - 引き継ぎ用シートの活用など



# 多様なネットワークづくり

## ■ 行政と保護者の連携

- 子どもの育ちや発達について気軽に相談できる仕組み  
(= 「敷居の低い」 アクセスポイント)  
の構築・確保

# まとめ

- 関係者の連携・ネットワークの活用が適切な支援につながる
- そのための体制をどう構築するか
  - 最新の知見・サービスを用いたコミュニティ・ベースでの支援体制構築
  - 関係者で情報共有ができる場を
    - 連絡会議、インターネットでの情報共有
  - 行政内部には連携の中核となる組織を設置
    - 教員を当該組織に配置
  - 行政と保護者の連携